

平成 22 年 5 月 18 日

第 53 回日本ばら切花品評会審査講評

審査長 土井 元章

(京都大学大学院農学研究科)

1. 審査経過

日本ばら切花協会（杉本重幸会長）主催の第 53 回日本ばら切花品評会は、本年度は心機一転、「第 12 回国際バラとガーデニングショー」（毎日新聞社、NHK、スポーツニッポン新聞社でつくる組織委員会主催、日本ばら切花協会は協力団体）のなかでの展示イベントとして西武ドームで開催された。これはかねてより、より多くの関心の高い人たちに品評会を見てもらい、バラの普及、販売促進に繋がりたいとの会長はじめ日本ばら切花協会執行部の強い願いによるものである。今回の品評会は、展示経費の負担のみならず、種々の調整・打ち合わせ等、多くのハードルを乗り越えて実現したものであり、まずは関係各位の努力に敬意を表したい。本品評会に割り当てられた展示場所は、ホームベース付近から 1 塁側、3 塁側へと張り出した西武ドームの中心部（入り口からは正面奥）であり、これまでのデパートの催事場とは違って展示スペースも数倍広く出展品を 2 段でゆったりと展示でき、その盛大さは来場者を魅了したに違いない。会場が暑いと開花が進むことも心配されたが、温度も適切に管理され、展示会場としては最高のコンディションであったといえる。第 12 回国際バラとガーデニングショーの来場者数は、5 月 12 日から 5 月 17 日までの全期間で約 21 万人とのことであり、品評会の展示の行われていた前半の来場者数は不明であるが、明らかにこれまでの品評会よりは多くの来場者があり、しかもその多くはバラ好き、庭好きの人たちであったと思われる。

今回の審査は、国際バラとガーデニングショー開催の前日である平成 22 年 5 月 11 日（火）の午前より切り花を搬入、生け込みを行って展示の準備を午前中に完了してもらい、同日午後 12 時 30 分から開始した。審査終了後は内覧会、翌 12 日、13 日と一般公開した後、後片付けを 5 月 13 日の夕刻から行って無事終了した。国際バラとガーデニングショーの全開催期間を通じての展示とはいかなかったが、これは今後の努力目標として、初期の目的は十分に達せられたのではないかと。

今回会場が広がったことで、出展数が少ないと展示が寂しくなることが懸念されたが、幸い全国から 452 点の出展があり、前年度より 2 割程度増加した。内訳は、スタンダード 348 点とスプレー 104 点で、その比率がおおむね 3 : 1 であり、本年度はスタンダードの出品数が前年に比べ 79 点増加している。スタンダードの内訳はピンク 143 点、赤 74 点、黄・オレンジ 45 点、白 32 点、その他 54 点であった。品種としては、昨年度のジャパンフラワーセレクション・フラワーオブザイヤーに輝いた赤の「サムライ 08」が最も多く、次いで白の「アバランチェ」であった。

品評会の審査は、審査長を京都大学の土井元章が務め、計 10 名の審査員により各賞を選考した。本年度お世話いただいた当番県は群馬県で、副審査長として群馬県農政部長技術支援課専門技術員の高橋厚が務め、群馬県農業技術センター園芸部の堀口数子、神奈川県農業技術センター果樹花き研究部の原靖英が行政・試験研究機関を代表して審査した。卸売市場からは、(株)大田花きの森好明、(株)フラワーオークションジ

ジャパンの堀江素子が、小売を代表して(社)日本生花通信配達協会の米田勝が、フラワーデザイナーを代表して(社)日本フラワーデザイナー協会の清水和乃、(株)ディノスの雨笠雅博の両名が、出版を代表して(株)角川マガジズ花時間編集部の米永正美が審査員を務めた。審査に先立ち、杉本会長の挨拶、日本ばら切花協会事務局の小林氏より出展数とその内訳、および優良賞、特別賞の概数について説明があった。また、審査長の土井より審査の進め方と留意点について説明した。とくに、今回のキーポイントが「香り」でありその点も評価対象としてほしいこと、香りの審査については徐々に鼻が慣れてくるので随時服の匂いなどを嗅いで嗅覚を戻してもらいたいとの注意を行った。審査員は3グループに分け、それぞれ①スタンダードピンク系、②赤、黄・オレンジ、白のスタンダード、③その他スタンダードとスプレーに分けて審査した。まず、優良賞候補を出品数の25%の数にあらかたなるように選び出し、特別賞候補を優良賞の中からそれぞれのグループで9点程度選んだ。その上で審査員全員で優良賞候補、特別賞候補を確認し、一部入れかえた上で候補を確定した。選ばれた特別賞候補はグループごとにある程度の順位づけをして並べ、特に優れた出品をスタンダードから3点、スプレーから2点選び出し、その中から農林水産大臣賞、生産局長賞、群馬県知事賞、群馬県議会議長賞と順番に擬賞していった。なお、特別賞27点中で同じ生産者からは2点以内とすることになっていたが、最初の選考の段階で3点以上特別賞に選ばれた生産者はいなかった。特別賞の擬賞については全審査員で合議の上決定した。

各賞の選考を終了後、杉本重幸会長はじめ日本ばら切花協会の役員と審査員が集まり審査講評、意見交換を行った。

2. 審査結果

今回農林水産大臣賞候補には、白のスプレーの‘ポニーテール’、赤のスタンダードである‘グランドアモーレ’、‘サムライ08’、ピンクのスタンダードである‘リメンブランクス’の4品が挙げられた。赤のスタンダードが2点あったので‘グランドアモーレ’を残し、最終的に審査員の挙手によって決定した。結果、‘ポニーテール’との僅差の末、滋賀県竜王町の杉本重幸氏出品の‘グランドアモーレ’が農林水産大臣賞に選ばれた。審査中出品者は伏せられているので、会長の出品であることは決定後に判明したことを申し添えたい。この農林水産大臣賞に擬賞した赤の大輪スタンダードである‘グランドアモーレ’は、ドイツのコレデスの品種で、近年全国的に栽培が増えている‘サムライ08’と同じ会社の作出品種であり、花色や形状も比較的によく似ている。ただし、‘グランドアモーレ’のほうがやや大型で、本出品は濃赤色の花の色の美しさ、花の大きさ、葉と花のバランスとボリュームといった点で一步‘サムライ08’を上回るものがあり、今回の決定となった。杉本重幸氏の後日談によると、あえて‘サムライ08’を選ばず、‘グランドアモーレ’を選んで栽培しているとのことで、改めて鋭い選択眼をもったバラ生産者であることを実感した次第である。一部にはこのような大降りのバラはいらないという声があることも事実であるが、それでは‘ローテローゼ’の大きさに戻れるかという点も必ずしもそうではない。ただ残念なことに、赤バラであることから今回のテーマである香りはほとんど感じなかった。

次に‘グランドアモーレ’と農林水産大臣賞を競り合った長野県飯島町の森谷匡彦氏出品の‘ポニーテール’を生産局長賞に選び、全審査員の了解するところとした。やわらかい白の大輪スプレーで、花は今はやりのカップ咲きで、ボリューム満点であった。森谷氏も高品質のバラを生産することにかけては定評のある

生産者であるが、これまでの春先の品評会では土地柄苦戦を強いられてきたところがあり、今回は5月というやや遅い時期の品評会であったことで、昨年に引き続いての特別賞受賞となった。南信地域では春先の施設内の温度が乱高下することから環境管理が大変難しい。その中で、白いバラをシミ一つなくここまで仕上げた氏の栽培技術には感服する。また、ほのかに香り、色、花形といった点でも日本人好みの品種であり、特にデザイナーの審査員から高い評価を得た。ある審査員から「トルコギキョウのようなバラ」という講評があったが、この品種にはトルコギキョウにはない香りがあり、是非トルコギキョウに奪われたブライダル需要を取り戻してほしいものである。

関東農政局長賞には茨城県古河市の石嶋啓男氏出品のピンク大輪スタンダードの‘リメンブランクス’を、群馬県知事賞には群馬県前橋市の山本敏彦氏出品の‘サムライ08’を選んだ。品種も異なり、いずれも甲乙つけがたかった。ちなみに、上記の上位4席のバラの生産者はすべて栽培温室の除湿に力を入れており、適度な湿度を維持することが高品質なバラを生産する上でいかに大切かを物語っている。近年のヒートポンプ導入の成果が確実に出てきていることになる。

以下特別賞については、関係する審査員がいる場合には、候補からそれぞれの賞を選んでもらい、27の特別賞を擬賞した。今回選ばれた特別賞において品種の重複は全くなかったことから、擬賞に当たってどれがよいかは審査員の好みの部分が色濃く出ており、小売店やデザイナーの審査員はスプレーを好み、卸売市場や試験研究機関の審査員はスタンダードを好むといった傾向にあると同時に、後者はやや保守的で奇抜な珍しい品種を避けようとする傾向にあるようである。

今回の品評会のテーマであった香りについては、さすがに全ての出品の香りを嗅ぐことはできず、特別賞の中には数点しか残らなかったが、香りの比較的強い品種で特別賞に選ばれたのは、上記の‘ポニーテール’以外に、‘タージマハル’（ピンクスタンダード、(社)日本生花通信配達協会賞、愛知県林正幸氏出品)‘クリームイブピアッチェ’（クリームスタンダード、(株)誠文堂新光社賞、奈良県坂上昇氏出品）、ジューク（白スタンダード、日本ばら切花協会会長賞、静岡県八木恒夫氏出品）があった。割合としては多くはないが、かつては香りのあるバラはそれ以外の品質面でとても主力品種には勝てなかったことを考えると、ずいぶんと育種、栽培技術の両面で進歩したことがうかがえる。

今回の品評会では、カップ咲き、ロゼット咲きの出品が大幅に増え、小売店や消費者の嗜好の変化がうかがえる。その中には香りのよいものも多くあった。従前このようなオールドローズ系の品種は花卉が弱く、病気も出やすいことから切り花生産には向かなかったが、育種が進んだこと、ヒートポンプの導入による冷房除湿ができるようになったことで、大幅に品質が改善されて出荷できるようになっており、切り前もある程度開いた段階で収穫することができるのとことである。これらがきちんと品質管理されて消費者の元に届けられれば、今後バラの新たな楽しみを喚起する起爆剤になるのではないかと思われる。また、ガーデンローズとも通ずるところがあり、今後品種の選定にあたってはより幅広く目を向ける必要が出てこよう。国際バラとガーデニングショーには日本ばら会やガーデンローズの育種業者も出展しており、日本ばら切花協会の会員との交流も進んだものと思われる。

3. 審査員の意見

審査終了後行った審査講評では以下のような意見が出された。

春先の気候が本年特に不安定で、温室の環境管理にさまざまな問題が生じて品質への影響が懸念された中で、出品されたバラ切り花はいずれもすばらしい出来映えで、数年前と比べても格段に品種、栽培技術、出展技術が向上しており、正直審査員泣かせであった。また、前年度以上に品種の多様化が進み、その中で丸弁、カップ咲きやロゼット咲きの品種が増え、香りの強い品種も相当数あった。今回から出展の際に添付するラベルに生産者のコメントを記入する欄が設けられた。記入されていない方も多くあったが、是非とも生産者の思いを花とともに来場者（消費者）に伝えることが必要でないかと感じた。これこそ輸入品とは違って日本の生産者だけにできることで、どのような生産者の思いや物語を添えてその花を買ってもらうかは、消費者とのコミュニケーションを図る上で大切なことであり、そのことが販売促進にも繋がるように思える。また、そのような生産者の思いが来場者に分かるような展示の工夫を是非ともしてもらいたいところである。香りについても、どのバラが香るのかという表示が必要であるとの指摘が複数あった。品種名についても表示が小さく、来場者に多様なバラの広がりを見てもらうにはもう少し展示の工夫が必要であろう。

卸売市場の審査員からは、確かに品種が多様化しているが、今後この中から主力品種が選ばれていくのではないかとの意見があった。また、今回出品されたバラは品質がすばらしいが、消費者はどこでこのような品質のよいバラを買えるのかといった情報を持ちあわせていないのではないかとの指摘があった。確かに、高級小売店でしかこのレベルの品質のバラは買えそうにないし、家庭用となるとはたしてうまく消費者に届いているのかという疑問が残るところである。

小売商の視点からは、最近売れ筋が黄色・オレンジであること、単色が好まれていること、葬儀用にもバラが使われだしていることなどが紹介された。一方で、ブライダル需要がトルコギキョウやダリアなどの他の花に圧されているとのことである。珍しい品種については、やはり必要という意見と消費者の好むものを優先すべきとの意見があった。また、開花してから日持ちするものがほしいとの意見があり、生産者からは切り前を遅くし、ある程度開花してからネットを蕾に被せて出荷している事例が紹介された。また、その際には小売店の理解が必要であり、品質管理や後処理剤処理を徹底してほしいとの要望がだされた。後者については、日本ばら切花協会も、「バラを長く楽しむために」というリーフレットを配布して啓発に努めているところである。

出版関係の審査員からは、もう少し説明がほしいとの要望が出された。単に切り花がそこに展示されているのではなく、その花にまつわる話があるとより一層イメージが膨らみ、そのことが付加価値となって評価されるのではないかとのことである。「花は心を表象する道具である」と言われるが、日本で生産されたバラがより日本人の心に響くものであってほしいと願う次第である。

会場内には日本ばら切花協会の切り花販売ブースも設けられ、そこで7通りのバラの香りの嗅ぎ分けができるという工夫がされていた。望むらくは、きちんとした解説パネルがほしいところである。

品種のみならず、ヒートポンプ、パッドアンドファン、補光と二酸化炭素施用、ドライミスト等バラの切り花生産の技術はめまぐるしく変化している。会員各位にあっては、是非とも会期中に会場に足を運び、他の会員との情報交流を通じてさらなる技術向上に切磋琢磨されることを希望する。また、本年度は西武ドームで開催された「国際バラとガーデニングショー」での品評会であり、日本ばら会といった趣味の団体やガーデンローズの育種業者などバラに関わる種々の団体も参加しており、生産者の方々はこのような大きな広がりの中で自分の生産するバラを位置付ける大変よい機会であったと思われ、今後も継続されることを期待

したい。

4. 審査結果

厳正な審査の結果、優秀賞（特別賞）27点、優良賞86点を選出し疑賞しましたので、これらに基づいて表彰されますようお願いして審査報告といたします。